



# 受け継がれる伝統

# 次世代のリーダーの育成



## 臨海学校

成城には「あこがれ」という伝統があります。例えば、100年以上の伝統がある、臨海学校。

参加する中学1年生の安全を守るために、選抜された高校2年生たちが指導の補助をしています。彼らは、泳ぎの指導だけでなく、安全な修技のために様々な業務をこなしてくれています。後輩のために、力強く働く先輩たちの姿は、中1のあこがれの存在。良い手本となっています。

成城は、絆を深め人間的に成長できる場であふれています。生徒たちは色々な先輩にあこがれながら、自己の個性と能力を伸ばし、自ら考え行動する次世代を担うリーダーに育っていきます。



## グローバル・キャリア教育

グローバル化が進む世界で20年後30年後の時代を担っていく生徒たちには、「自己の確立」を促す新たなリーダー教育が必要です。

本校には、そのための様々な研修プログラムがあります。OBとのつながりを活用したキャリア講演会やグローバル研修など、多種多様な活動を通じて、生徒たちは職業観や自己の表現力を養い、自身のキャリアを考えるうえで、多くの刺激を得ることでしょう。

成城では、これからの時代をたくましく生きる人間力の高いリーダーを育成しています。



グローバルリーダー研修

オーストラリアと台湾でおこなわれます。グローバル社会におけるリーダーシップについて考える機会となります。(希望者対象)



Global Studies Program

カリフォルニア大学など、世界のトップ校の学生を本校に招いておこなう、自己確立のための研修です。(希望者対象)



キャリア講演会

OBや外部講師を招いて講演会を実施しています。生徒の職業観を養い、今後のキャリア形成について考える機会となります。



ニュージーランド・ターム留学

高1で校内選考をおこない、ニュージーランドにてホームステイをしながら、現地校に1学期間通学します。(高1希望者対象)

# 成城の 6年間

6年間で、生徒は仲間との経験や挑戦を通して、自ら考え行動する力を身につけていきます。失敗と成功を重ねながら自己効力感を育み、自信を持って社会へ踏み出していきます。



## 基礎学力養成期

### 自学自習を促す

学習習慣の確立には、目標を設定すること、自ら計画を立て時間を適切に管理することなどが求められます。うまくいかないことや失敗することも想定しつつ、対話を重視したきめ細かい指導をおこなっています。他律的な学習から、自律的な学習に切り替えられるように促します。

## 進路決定期

### 自分を知り、世界を知る

より勉強したい生徒向けの発展講座や進学講習、異文化に興味を持つ生徒向けのグローバル研修が始まります。様々な機会が設けられており、それらを自ら選択することで、やり抜く力が身につきます。未来の履歴書の作成や、OB講演会などは、自分の将来を考えるきっかけとなります。

## 実力完成期

### 他者に影響を与える存在に

学校行事や生徒会活動、部活動などでリーダーシップを発揮する機会がふえます。他者に影響を与える存在としての自覚が生まれ、将来の目標が明確になっていきます。自らが希望する進路を実現するために、授業や進学講習を通じて、実力の完成を目指します。

中学1年生

中学2年生

中学3年生

高校1年生

高校2年生

高校3年生

## 教科教育

## 表現活動

## 人との関わり

## 探究的な活動

学力均等の

クラス分け

文系/理系のクラス分け

※一部の科目で習熟度別授業

国・数・英を中心とした基礎学習

国語科

表現物を作成するための土台作りをおこないます。

国語科

調べた情報をもとにした資料作成と発表をおこないます。

英語科

ネイティブスピーカーの主導により、パラグラフライティングの基礎を養成します。

英語科

英会話を通じて、積極的に自分の考えを英語で発信する姿勢を育みます。

臨海学校

千葉県南房総市の岩井海岸において、3泊4日で実施します。泳力別の班に分かれ、修学をおこないます。

林間学校

おもに長野県において2泊3日で実施します。農村のご家庭で民泊をおこない、トレッキングや林業体験などを通じて自然や人と触れ合います。

海外研修・留学（希望制度）

Global Studies Program / オーストラリア・グローバルリーダー研修

Global Studies Program / オーストラリア・グローバルリーダー研修 / 台湾・グローバルリーダー研修 / ニュージーランド・ターム留学

Global Studies Program / オーストラリア・グローバルリーダー研修 / 台湾・グローバルリーダー研修

大学受験対策

数学統計

表計算ソフトや生成AIの活用方法を伝授し、これからの時代に通用する情報モラルやリテラシーについて指導します。



内藤とうがらし栽培

江戸時代に新宿で栽培されていた伝統野菜、内藤とうがらしを栽培しています。管理方法や肥料の配合を自分たちで考えて育てます。



個人テーマ設定

高1での探究論文作成に向けて、中3の間に0段階目となる知見を広げる活動と、1段階目となる課題の設定をします。



論文作成

中3で設定した課題を出発点とし、3回のチュータリングを経て、各自で探究論文を執筆します。



個人研究

論文執筆の経験をいかして、各自の興味関心にもとづいて個人研究をおこないます。



# 成城の教科教育

## 国語科

### ことばを豊かにする

国語という教科は、日常的に使うことばを相手にする教科です。そのため、あらゆる教科の基礎となるものだといえます。また、人間が学習し、知識を得、物事を考え、何かをつくりだすために、ことばは最も大切な道具です。自分というものをつくっていく分身のようなものでもあります。ことばが豊かな人は、学習においても、人生においても、豊かなものを得られるでしょう。

国語の学習を通じて、豊かなことばを身につけてほしいと思います。

#### PICK UP

#### 学校図書館と連携した授業

国語では図書館と連携した授業をおこなっています。本の専門家である司書と組むことで、教科書にとどまらない授業を展開するためです。授業を通じて、図書館や司書を身近に感じ、授業外でも積極的に本(ことば)に触れてほしいとも考えています。



## 数学科

### 数学の面白さ・論理的思考力を学びとる



中学では「代数」「幾何」「統計」の3分野に分けて並行して授業を展開しています。特に「統計」においては、高校の教科「情報」との関連性も高いため、情報科とコラボレーションして週1時間で授業を展開しています。週3時間の「代数」と週2時間の「幾何」においては、数学史や自然の中の数理的な現象も扱い、数学への興味や探究心を喚起しています。

高校では、様々な単元を通じて論理的思考力を養い、問題の答案として表現するための記述力を修練していきます。

#### PICK UP

#### 文系理系合同の入試対策演習

高3では教科書を終えた単元から順次、入試対策演習をおこなっています。大学入試方式の多様化に対応し、文系も理系と同じ演習を受講できるようにしています。習熟度別のクラス編成で、共通テスト対策から最難関大学対策まで幅広くカバーしています。

## 英語科

### 基礎からじっくり4技能を向上させる

小学校での学習到達度に関わらず、本校では全員同じスタートラインから学習を始めます。中学ではネイティブスピーカーと日本人教員による英会話の授業を各学年週1時間でおこなうなど、4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく習得させていきます。

高校では大学入試も視野に入れ、「英語は使うことによって習得できる」ということを意識させながら、英語力・コミュニケーション能力を総合的に向上させることを目指しています。

#### PICK UP

#### ネイティブスピーカーによるライティングの授業

高1・高2において、ネイティブスピーカーによるライティングに特化した授業を週1時間でおこなっています。自分の意見やその根拠などを英語で発信できることを目標とし、添削をおこなうことにより、より多くの英語表現が定着するように指導しています。



## 理科

### 実験や観察を通じて「ホンモノ」に触れ、科学的な考え方を身につける

中学では「物理・化学分野」を扱う「理科1」と、「生物・地学分野」を扱う「理科2」に分けて授業を展開しています。様々な理科の知識を講義で学ぶだけでなく、実験や観察を数多くおこない、身近に起こる現象についての理解を深め、自然に対する興味・関心を育てています。

高校では「物理」「化学」「生物」「地学」の4分野に分かれ、より高度な知識や技能を学習し、難関大学入試問題に対応できる力を養います。興味の幅をさらに広げ、科学的な考え方の完成を目指します。

#### PICK UP

#### 生き物に関するレポートの作成

中1の理科2では、興味を持った生物に関する研究発表をおこなっています。テーマ設定から結果・考察まで自分で考えてレポートを仕上げます。さらに研究レポートをポスターにアレンジしてポスター発表をおこない、生徒どうしで評価し合います。また、ポスターは文化祭期間に掲出し、ポスターコンテストとして来場者に投票してもらうなど、第三者に評価してもらう機会を設けています。



## 社会科・地理歴史科・公民科

### 総合的な知を身につけ、社会を見つめる



中学では1・2年で歴史的分野と地理的分野、3年で公民的分野を学びます。それぞれ特色を持つ分野ですが、最終的な目標は共通です。それぞれの視点から、過去から現在に至るまでの様々な社会事象を学ぶことで、分野をこえた総合的な知を身につけることを目標としています。

高校ではより幅広い知識を習得するとともに、本格的な論述問題に対応するための授業も設定しています。また、夏期と冬期に開講される進学講習では、生徒の興味関心を引き出すため、座学にとどまらない多種多様な講座を開講しています。

#### PICK UP

#### 環境地図の作成

中1・中2の生徒を対象に、自分でテーマを設定し、調べ、結果を考察するための環境地図の作成をおこなっています。実際に現地へ足を運び五感を通じて感じる大切さも伝えており、生徒の学びのモチベーションにつながっています。

## 保健体育科

### 伝統を継承する

保健では「健康とは何か」ということを大きなテーマとして、身体や心、飲酒、喫煙、薬物、感染症、医療制度など横断的に幅広く学びます。心身ともに健康に生活をしていくために、また日常生活を送るうえで知っておくべき知識や技術を身につけます。

体育では運動技術やルールを基礎・基本から段階的に学び、高3では道具の準備や審判も含め、生徒自身による試合運営を目指します。また、中学運動会での中3による「成城体操」や高2の「臨海学校補助員」など、伝統を後輩へ受け継いでいく指導をおこないます。

## 技術家庭科

### 〈技術科〉ものづくりを通じて、「豊かな心」を養う

材料の特性や加工方法を学び、試行錯誤しながらものづくりに取り組みます。木材や金属の加工、栽培、プログラミングやロボット製作を通じて、現実の技術の世界に触れます。一人で素材に向き合い没頭する時間や、仲間と協働する学びを大切に、創造性やチャレンジ精神を育てていきます。

### 〈家庭科〉日常をより楽しく

中学では衣・食を中心に、高校ではより深い学びにつなげるための基礎的知識の習得を目標としています。高校では食・住・法律を主なテーマとして、分野ごとに関わりのある他教科の要素も取り入れることで広い視野を持った自立した人材の育成を目標としています。

## 芸術科

### 〈音楽科〉「感性と創造力」・「自ら気づく力」を育む

授業では歌・合奏・鑑賞・楽典を中心に生涯教育としての音楽を学ぶと同時に、様々な要素を含む音楽を通じて、「自ら気づき表現できる感性」と「創造力」を育み、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けることのできる視点を養います。

### 〈美術科〉世の中の現象を造形的に考える

絵を描いたり、彫刻をつくったり、デザインを考えたり、動画を編集したりしながら、世の中の現象を造形的に考えることによって、これからの自身の生活を豊かにしたり、豊かな心を育めるような体験をしてもらいたいと思っています。

## 情報科

### めまぐるしく変化する社会への対応

高1で設定している「情報Ⅰ」では、プログラミングやデータ分析についての実習時間を豊富に確保して、知識と経験を積み上げていきます。

高3では、共通テストに対応する授業と「情報Ⅱ」を設定しています。コンピュータ教室には、生徒がDX機器を活用できるように、ハイスペックPCや3Dプリンタなどを備えています。

# 成城の行事 ~ 年間行事紹介 ~

本校では行事も大切な学習機会と考えています。  
臨海学校・林間学校を、全国に先駆けて開設したのも本校であり、  
今日までその伝統は脈々と受け継がれています。

※日程は変更になることがあります。

4 APRIL	5 MAY	6 JUNE	7 JULY	8 AUGUST	9 SEPTEMBER	10 OCTOBER	11 NOVEMBER	12 DECEMBER	1 JANUARY	2 FEBRUARY	3 MARCH
 <ul style="list-style-type: none"> <li>入学式・始業式・対面式</li> <li>新入生オリエンテーション</li> <li>新入生歓迎会</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>春季校外課業(遠足)</li> <li>5月考査(中間試験)</li> <li>春の中学行事(中学)</li> <li>プール開き</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>春の視聴覚行事</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>7月考査(期末試験)</li> <li>体育祭(高校)</li> <li>臨海学校(中1)</li> <li>林間学校(中2)</li> <li>発展講習(中3)</li> <li>夏期進学講習(高校)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>各クラブ夏期合宿</li> <li>Global Studies Program(中3~高2希望者)</li> <li>オーストラリア・グローバルリーダー研修(中3~高2希望者)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>運動会(中学)</li> <li>10月考査(中間試験)</li> <li>秋の中学行事(中学)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>秋の視聴覚行事</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会</li> <li>12月考査(期末試験)</li> <li>発展講習(中3)</li> <li>冬期進学講習(高校)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>創立記念日</li> <li>講座制授業(高3)</li> <li>実用英語技能検定(中1~高2)</li> <li>ニュージーランド・ターム留学(高1希望者。4月まで)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>入学試験</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>3月考査(期末試験)</li> <li>修学旅行(中3・高2)</li> <li>スキー学校(中2)</li> <li>中3を送る会(中学)</li> <li>中学・高校卒業式</li> <li>修了式</li> <li>台湾・グローバルリーダー研修(高1・2希望者)</li> </ul>

## ◎ 行事PICK UP

<h3>中学行事(社会科見学)</h3>  <p>年2回、中間試験の翌日におこないます。本校周辺の大学や研究施設、博物館や美術館を班で散策し、感性や地図を見る力を育みます。</p>	<h3>体育祭(高校)</h3>  <p>生徒会が運営する学年別クラス対抗の球技大会です。多種多様な球技がおこなわれ、クラスの親睦を深める絶好の機会になっています。</p>	<h3>林間学校(中2)</h3>  <p>大正7年に開設された伝統行事です。トレッキングや林業体験などを通じて、人と自然の関わりを学びます。近年では、農村のご家庭で民泊をおこなっています。</p>	<h3>文化祭</h3>  <p>生徒たちが主体となって運営し、クラス企画や、文化部の研究発表、運動部の招待試合、有志団体など、全生徒が参加する大きな行事です。</p>	<h3>運動会(中学)</h3>  <p>中学3学年が7チームに分かれて競います。生徒が主体となって競技プログラムを考えたり、準備設営をおこなったりしています。</p>	<h3>修学旅行(中3・高2)</h3>  <p>3泊4日で実施され、歴史・文化・自然を学びます。高校では複数コースから選択することもあります。近年では沖縄・関西・九州・中国地方でおこなっています。</p>
---	---	--	---	---	--

成城生の1日

石井 鴻成  
中3・144期生



好きな教科は社会。中学野球部に所属。

### 1日の時間割(例)

1時限目 美術	2時限目 美術	3時限目 社会	4時限目 理科	昼休み	5時限目 国語	6時限目 数学	ホームルーム・掃除	部活動
---------	---------	---------	---------	-----	---------	---------	-----------	-----



登校  
~8:20

都営大江戸線牛込柳町駅から徒歩1分。信号の無い落ち着いた通学路です。



ホームルーム  
8:30~8:40

朝、担任の先生から出席のチェックを受けてから、1日が始まります。



午前の授業(美術)  
8:40~12:30

点描画の下書きをしています。点描画は根気が必要で、みんな真剣そのものです。



昼休み  
12:30~13:10

早弁で食事を済ませ、仲の良い友達と談笑しています。



午後の授業(数学)  
13:10~15:00

先生の解説を聞きながら、数学の問題集を解いています。



ホームルーム・掃除  
15:00~15:25

帰りのホームルームの後は、掃除です。大切な教室を自分たちできれいに。



部活動(中学野球部)  
15:30~

放課後は中学野球部に参加し、練習に打ち込みます。

# 多彩なクラブ活動



## 運動部

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>中学硬式テニス部</li> <li>中学サッカー部</li> <li>中学バスケットボール部</li> <li>中学バレーボール部</li> <li>中学野球部（軟式）</li> <li>剣道部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道部</li> <li>水泳部</li> <li>体操部</li> <li>卓球部</li> <li>陸上競技部</li> <li>バドミントン部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>高校硬式テニス部</li> <li>高校サッカー部</li> <li>高校相撲部</li> <li>高校バスケットボール部</li> <li>高校バレーボール部</li> <li>硬式野球部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>山岳部（高校のみ）</li> <li>自転車競技部（高校のみ）</li> </ul> |
|---|--|---|---|

## 文化部

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>囲碁部</li> <li>演劇部</li> <li>科学部</li> <li>合唱部</li> <li>写真部</li> <li>ジャグリング部</li> <li>吹奏楽部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>速記部</li> <li>地理研究部</li> <li>鉄道研究部</li> <li>美術部</li> <li>放送部</li> <li>歴史研究部</li> </ul> |
|--|--|

## 同好会

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>中学相撲同好会</li> <li>古典ギター同好会</li> <li>将棋同好会</li> <li>数学研究同好会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>スキー同好会</li> <li>釣り同好会</li> <li>文芸同好会</li> </ul> |
|---|--|



### 後輩

**小野 暖馬**  
高3・141期生  
高校サッカー部 部長

### 先輩

**井上 祐介**  
2026年卒・140期生  
高校サッカー部 前部長  
上智大学 外国語学部  
イスパニア語学科入学

## SEIJO STORIES

卒業する先輩が、大学入学前にOBとして活動に参加して、現在の部長に思いを託しました。

# 「先輩」×「後輩」

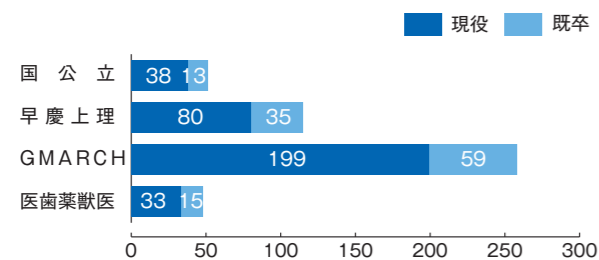
**小野**：先輩、卒業おめでとうございます。今日はよろしくお願いします。  
**井上**：ありがとう。小野はいま部長としてチームを引っ張っていると思うんだけど、実際にやってみてどうかな？  
**小野**：自分で言うのは変ですが、僕は大きな声と情熱でチームを引っ張る盛り上げ上手な部長ではないと思っていて、どちらかというと、先輩のように日々の行動で後輩に手本を示すタイプだと思っています。  
**井上**：僕も声でチームを盛り上げるのはあまり得意じゃなかったね。その分、プレーとか、普段の態度を後輩に見せることを意識してた。日々の挨拶や礼儀、勉強も含めて、当たり前のことを当たり前にやるのが大事。下級生たちのお手本になれるような人でありたくて、そういう姿勢を見せてチームをまとめられたらいいなとは思っていたよ。  
**小野**：そこはすごく印象に残っています。先輩はチーム全体を冷静かつ俯瞰的に見れる存在でした。口数は多くありませんでしたが、その分言葉の重みを感じていました。  
**井上**：個々人が日々積み重ねる行動が、チーム全体の雰囲気を作ると思うんだよね。  
**小野**：はい。あと、先輩たちが勉強している姿にも影響を受けてました。自修館に行くといつも先輩がいて、「自分たちもやらなきゃ」と自然に思えました。  
**井上**：先輩の行動には影響されるよね。後輩って先輩のことをちゃんと見てる。  
**小野**：本当にそう思います。自分たちもその姿勢を見て、勉強に取り組むようになりましたから。  
**井上**：でも部活と勉強との両立は大変な部分もあるよね。高2の初めくらいから自主的に勉強を始めておくと、高3になった時にあまり焦らない。時間は限られているけど、積み重ねていけば何とかかなと思う。  
**小野**：僕は焦りやすいタイプなんですけど、試行錯誤しながら勉強法を変えて、最近は少しずつ成果が出てきました。  
**井上**：それでいいと思うよ。大事なのは続けることだから。  
**小野**：ありがとうございます。あと、後輩との関わり方についても聞きたい

のですが、先輩はどんなことを意識していましたか？  
**井上**：あまり強く言いすぎないようにしていたかな。試合の時は、みんながリラックスできるようにしたかった。普段から練習を任せることが多かったけど、みんなちゃんとやってくれてたから、あまり細かく言う必要もなかったよ。  
**小野**：そうですね。任せてもらえることが多くて、練習メニューも自分たちで考えるようになりました。それが成長につながったと思います。  
**井上**：自分の代は人数が少ない時期があって、その分一人ひとりが主体的に動く必要があったからね。それが今の自立した雰囲気につながってるんだと思う。  
**小野**：はい。先輩たちにしてもらったことを今度は後輩に返していきたいと思っています。  
**井上**：思いをつないでいけるのが部活のいいところだと思う。代をこえて続いていくものが、チームの強さにつながる。  
**小野**：はい。先輩から学んだことをいかして、自分たちの代でも良いチームを作っていきたいです。

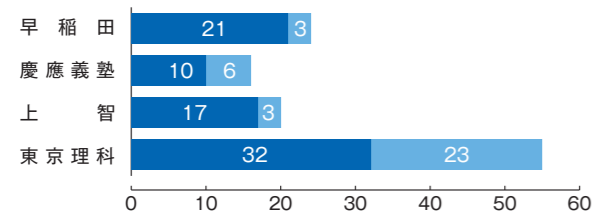


# 進学状況

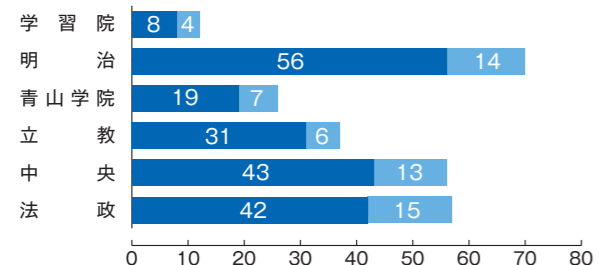
2026年  
主要大学の合格状況(卒業生244名)



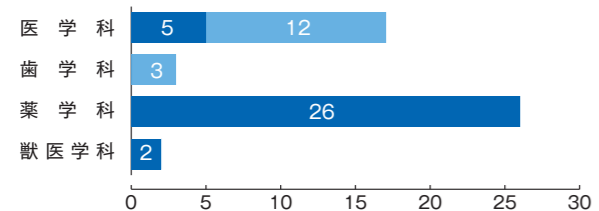
## ● 早慶上理



## ● GMARCH



## ● 医歯薬獣医学科



## ◎ 卒業生より

中高を通じて考査で良い順位を取ることを目標にして、日々の勉強を積み重ね、受験勉強につなげていきました。

高3の授業はレベルが高く、難関大の過去問を扱う世界史や、数学の授業で特に自分の力がついていたと感じています。現役合格できたのは、生徒の自主性を尊重する成城の方針のおかげだと考えています。

桑田 悠平 2026年卒・140期生  
京都大学 総合人間学部 入学



勉強は基礎がとても大事だと僕は思っています。基礎をあまり理解していないと、レベルの高い問題を解くことはむずかしいです。これは当たり前のことですが、意外とできていないことが多いと思います。

そして気持ちも大事だと思っています。勉強だけでなく、色々なことも最後は気持ちです。僕は物事を前向きにとらえることによって、試験本番では自分の実力を最大限に出せました。

岡崎 真怜 2026年卒・140期生  
東京大学 理科一類 入学

現役合格率  
85.2%

現役進学率  
76.1%

国公立大学  
51名(現役38名)  
※大学校2名を含む

東京大学 1名(現役1名)  
京都大学 1名(現役1名)

早稲田・慶應大学  
40名(現役31名)

一橋大学 1名(現役0名)  
北海道大学 5名(現役3名)  
東京科学大学 2名(現役1名)

2026年 指定校推薦(合計82大学)

大学	推薦枠	進学者
早稲田	6	6
慶應義塾	2	2
上智	3	2
東京理科大学	9	3
学習院	9	0
明治	4	2
青山学院	2	1
立教	1	0
中央	9	1
法政	4	1
同志社	1	0
医学部医学科	4	0
歯学部歯学科	12	0
薬学部薬学科※6年制	14	0

## SEIJO STORIES

志望校に合格した卒業生が、お世話になった先生を訪ね、これまでの学校生活を振り返ってくれました。

# 「卒業生」×「先生」

菅原: あらためて卒業そして東北大学合格おめでとう。

川崎: ありがとうございます。

菅原: 志望校について具体的に考え始めたのはいつ頃だったのかな?

川崎: 高2の終わり頃です。高1の文理選択の時には、経済や法律も面白そうだと迷っていたのですが、学校の授業で一番楽しかったのが生物だったので理系を選びました。大学について当初は明確に考えていなかったのですが、高2の終わり頃に東北大を志望校に決めました。

菅原: どうして東北大を選んだの?

川崎: 国際卓越研究大学に選ばれていることや、ナノテラスなど研究設備が充実している点に魅力を感じたからです。将来は、生物学を幅広く学び、その中でやりたい分野を見つけていければと思っています。

菅原: 最初から研究テーマが決まっている人もいるけど、入学後に見つけるのも全然ありだね。勉強に本格的に火がついたのはいつ頃かな?

川崎: あまり自覚はないのですが…。

菅原: そうなんだ。成績は高2になってからは、ずっと上位で安定していたよね。

川崎: 受験が近づくにつれて、勉強のペースは確実に上がっていきました。それまではテスト前に復習するのが中心だったのですが、高1の終わりに数学の反復練習をする中で、勉強方法の大切さに気づきました。

菅原: 水泳部とウォーターボーイズもよく頑張っていた印象があるよ。

川崎: 水泳部は中1から高2の引退まで、ウォーターボーイズは中2から高1の引退まで続けました。特にウォーターボーイズの練習で夏休みがほとんど埋まっていました。

菅原: 努力を重ねて、最後は練習でも成功しなかった5段タワーを本番で成功させたよね。あの経験で培った忍耐力や達成感が、その後の勉強にもつながったのかもしれないね。

川崎: そうだと思います。

菅原: それから、高2・高3で生物オリンピックにも挑戦して、高3では本選出場。全国の強豪が集まる中でこれは本当にすごいよ。挑戦できたのが素晴らしい。

川崎: 先生に勧めていただいたことが大きいです。もともと存在は知っていて興味もあったのですが、なかなか一歩が踏み出せずにいました。背中を押してもらって、挑戦する決心がつきました。

菅原: 高2の時点でも好成绩だったけど、高3ではさらに成績を伸ばしていて、実力の向上を感じたよ。本選に出場してみようと思った?

川崎: とても刺激を受けました。実験に慣れている人が多く、自信を持って積極的に意見交換をしていて、他の大会での経験を話している人もいました。成城とはまた違った環境でしたが、そうした人たちと交流できたのはとても楽しかったです。

菅原: 勉強に部活に、本当に成城での生活を全力でやり切ったという印象だけど、成城で良かったと思うことはある?

川崎: やはり良い仲間に出会えたことです。水泳部やウォーターボーイズ、クラスの友人も含めて、考え方や価値観が近く、互いに高め合える環境があり、とても過ごしやすかったです。

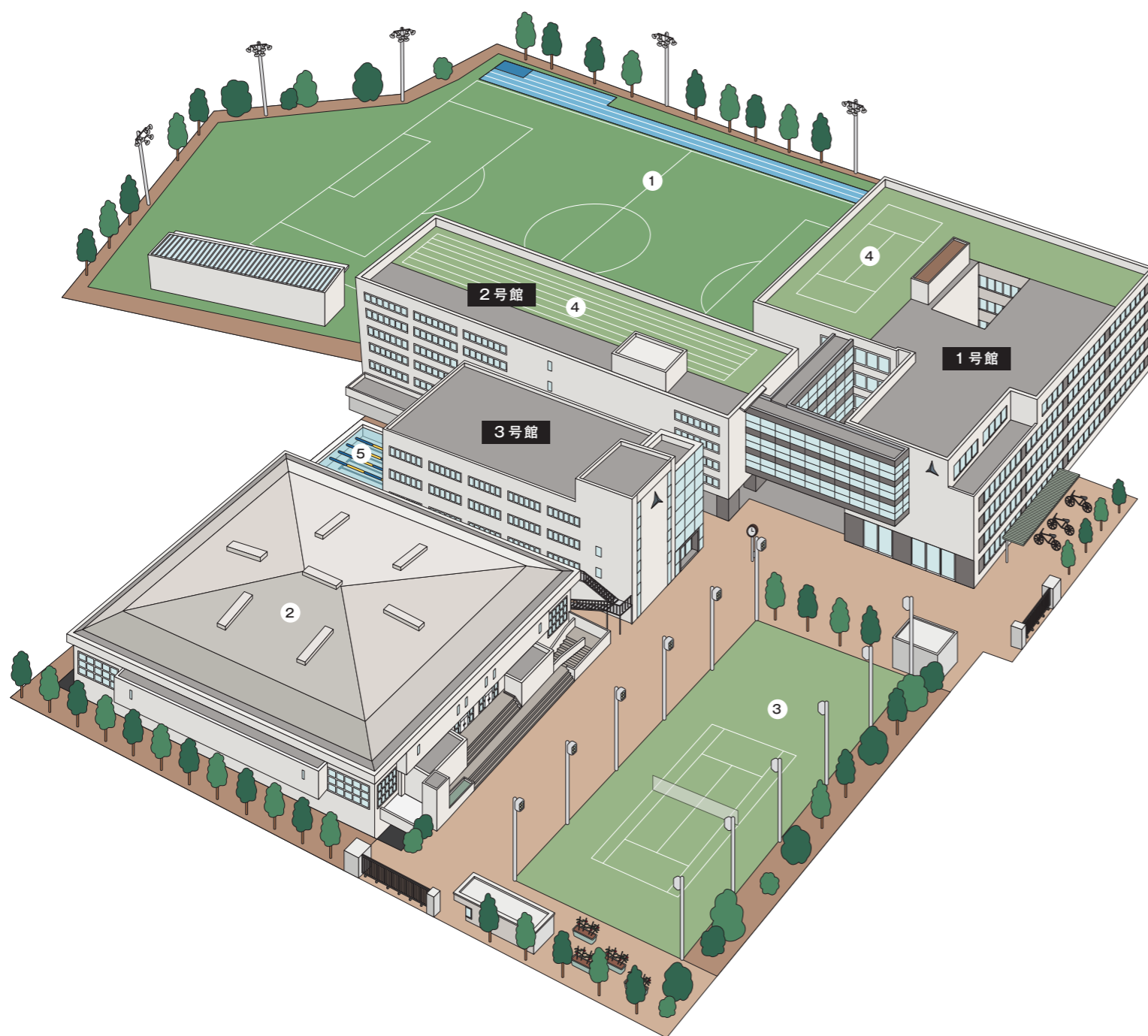
菅原: それは良かったね。大学ではクラスという単位はあまりないから、そうしたつながりはサークルや研究室が中心になると思う。これからは様々な人と出会い、さらに成長しながら、自分の学びたい分野を深めていってください。応援しています。

川崎: ありがとうございます。

祝  
日本生物学オリンピック  
本選出場  
川崎浩一郎君



# 施設・設備



**1 グラウンド**  
ゴムチップ入りの人工芝に加え、陸上競技用のタータンコースも完備。



**2 体育館**  
バスケットボールコートが2面とれ、観覧席もある大きな体育館。式典でも使用。



**3 サブグラウンド**  
正門を入ると広がる砂入り人工芝の多目的グラウンド。



**4 屋上**  
人工芝のコースとテニスコート1面を完備。



**5 温水プール**  
25m×6コースの屋外温水プール。5月末～9月末まで使用。



**1号館 地下体育室**  
体操器具や音響機材を備え、授業では跳び箱やマット運動、卓球などで使用。



**体育館地下 柔道場・剣道場**  
本校の武道は柔道を履修。  
※写真は柔道場。



**2号館 職員室**  
教員と対面できるカウンターが設置された開放的な設計。質問コーナーや面談室も設置。



**体育館地下 小講堂**  
講演会や保護者会、説明会など幅広い用途で活用する561席の講堂。



**3号館 図書館**  
蔵書数3万9千冊。閲覧席やソファ席があり、プロジェクターやWi-Fiを完備。



**1号館 カフェテリア**  
自然光の入る清潔感と開放感のある198席の食堂。軽食も販売。



**2号館 自習館(自習室)**  
職員室や進路指導室と同じフロアにあり、学習や進路の相談がしやすい学習環境。



**1・2・3号館 特別教室**  
物理・化学・生物・地理地学・音楽・美術・技術・調理・情報など、専門教室を完備。

# VOICES

## STUDENTS

## GRADUATES

【Q:どんな成城生活を送っていますか?】

【Q:成城生活はどのようにいきていますか?】



STUDENT 01

貞村 涼太 高3・141期生  
生徒会長

### 育まれる伝統と、学年を越えたつながり

本校には、長い歴史の中で受け継がれてきた温かな伝統があります。私は中1の頃、臨海学校では上級班に所属し、遠泳に参加しました。遠泳で先頭を泳ぐ高校2年生の先輩から励ましの声をかけてもらいました。その頼もしい背中が憧れた経験は、今も心に残っています。高2になって、私が補助員として参加した際には、同じ上級班を担当し、今度は自分が後輩に背中を見せる立場になれたことに誇りを感じました。

このような学年を越えたつながりは学校生活の随所に広がっています。日常の学校生活においても、学年の垣根を越えて交流があり、他校ではなかなか見られない温かな関係性が築かれています。

文化祭には多くの卒業生が自然と足を運び、和やかな雰囲気で行事とともに盛り上げてくれます。ぜひ一度ご来校いただき、本校の雰囲気や自修館などの自慢の施設をご覧ください。



STUDENT 02

牧野 光汰 高3・141期生  
剣道部 部長

### 私の一番の成長

幼少の頃から剣道を続けてきましたが、部長として部員をまとめる役割は苦勞の連続でした。当初は、自分のリーダーシップのなさに悩みましたが、仲間と頼る大切さ、部員の声に誠実に耳を傾けることを学ぶ中で、仲間と一緒に歩むことの重要性を実感できたことが、私の一番の成長です。

今年、中3になった弟も同じ剣道部に所属しており、兄弟が高め合える関係性を築いています。文武両道を目指し、部活動のあとに図書館や自修館で課題を終わらせ、さらに自宅で勉強する習慣を身につけました。充実した施設は、勉強を続ける大きな支えとなっています。皆さんも成城で自分らしく、文武両道の学生生活を過ごしてみませんか。



STUDENT 03

南里 奏多 高2・142期生  
オーストラリア・グローバルリーダー研修参加

### 新しい世界がある

成城には、グローバルリーダー研修などの海外を訪れる多くの機会があります。私自身、もともと「一度は海外でホームステイしてみたい」という思いがあり、まずは話を聞いてみようという説明会に参加しました。

そこで研修内容に強く惹かれ、オーストラリアでの研修に参加することを決めました。現地では、日本と異なる生活を体験する中で、これまで知らなかった世界に触れることができました。

初めての経験を通じて、視野が大きく広がり、「行動することの大切さ」を実感しました。皆さんも成城で新たな世界に出会い、自分の可能性を広げてみませんか。



STUDENT 04

村上 達紀 中2・145期生 | 阿部 蒼介 中2・145期生  
中学野球部 | 中学野球部

### 仲間とともに

野球は打つ・投げるといった個人のプレーが中心に見えますが、実際には仲間同士がカバーし合い、全員の連携によって成り立つスポーツです。個々の力が高くても、チームとして一つにならなければ勝つことはできません。試合に出る9人だけでなく、部員全員がそれぞれの立場でチームを支え、ともに戦っています。

週5日の活動と学業の両立は大変ですが、その大変さを忘れるほど充実した練習や試合があります。優しい先輩や気の合う仲間にも恵まれ、日々楽しく活動しています。



GRADUATE 01

乳原 晃平 2019年卒・133期生  
日本大学 医学部医学科卒 / 日本大学医学部附属板橋病院 研修医  
2025年 準硬式野球 東日本代表

### 限界を決めずにチャレンジする

成城での学生生活を振り返ると、中学では野球部、高校ではハンドボール部に所属し、友人と充実した日々を過ごしました。また、情熱あふれる先輩方と出会い、「自分の限界を決めず高みを目指す」姿勢を育むことができました。その経験を土台に、大学在学中には準硬式野球で東日本代表に選抜され、憧れだった甲子園球場でプレーをすることができました。また、医師国家試験にも合格するなど、「文武両道」を実現できました。今後も成城で得た情熱を胸に、挑戦を続けていきます。



GRADUATE 02

土屋 洋平 2004年卒・118期生  
早稲田大学 政治経済学部卒 / キリンホールディングス株式会社 人財戦略部

### 自ら考え、他者と向き合い、ともに生きる

成城での学生生活は、学問を通じて「自ら考え、他者と向き合い、ともに生きる力」を育む時間でした。自学自習の積み重ねと、敬愛親和の精神の下で築いた仲間との対話は、今も私の原点です。現在はキリンホールディングスにて人事の仕事に携わり、「人の無限の可能性」を信じ、人と組織の成長を通じて、事業と社会に貢献することを目指しています。

事業づくりは仲間づくり、仲間づくりは未来づくり。成城で出会う人との縁を大切に、自分らしい問いを持ち続けてください。その積み重ねが、必ず未来への希望の種になります。



GRADUATE 03

海住 英生 1996年卒・110期生  
慶應義塾大学 理工学部卒 / 慶應義塾大学 理工学部 教授

### 原点となった成城の「物理」

「自学自習」の校風の中で、素晴らしい先生方、そして、友人に恵まれました。特に、当時の物理の先生には大変お世話になりました。授業の番外編で「相対論」や「量子力学」を教えてくださいました。これが私の「物理」の原点となっています。現在はスピントロニクスという最先端研究をおこなうと同時に、電磁気学や磁性に関する講義を大学でおこなっています。

成城では文系・理系問わず、ハイレベルな授業を受けることができます。部活や課外活動も充実しています。学力・思考力・人間力の基礎を習得できる貴重な6年間を過ごせると強く思っています。



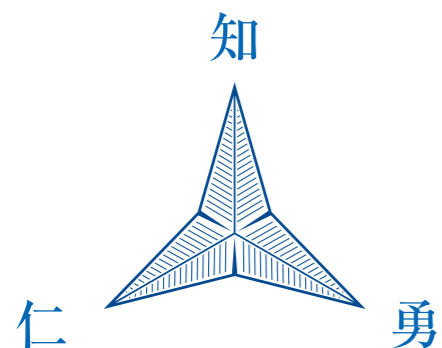
GRADUATE 04

佐藤 可士和 1983年卒・97期生  
多摩美術大学 グラフィックデザイン科卒 / クリエイティブディレクター

### 人生最大のターニングポイント

僕の人生で最大のターニングポイントは高校2年生の時だ。当時、大学への進路が見えないままボンヤリと友達と過ごす高校生活だった。進路指導で文系か理系に分かれるということだが、行きたい先が見つからず悶々としていた。子供の頃から絵を描くことが大好きで得意だったのだが、それと大学受験が自分の中で結びついておらず、勝手に文系か理系のどちらかを選ばなければならないと思い込んでいた。学年で一人だけ美術大学を受験するという友人がおり、彼に相談すると、今まで全く思い浮かばなかった美大受験という道が見えてきた。突然の希望の光！これからのことを想像するとワクワクした。それが人生最大の決断で、その日からクリエイターになる道を歩み始めた。高2の時に感じたそのテンションは、今も変わらない。

## 校章「三光星」



「三光星」の意味するところは  
儒教において  
基本的な三つの徳とされる  
「知・仁・勇」である。

中国の古典『中庸』の「知・仁・勇の三者は達徳なり」より。

## 校訓

自学自習 質実剛健  
敬愛親和 自治自律

## 「成城」の由来

校名の「成城」は中国の古典『詩経』大雅編にある「哲夫成城」からとったもの。哲夫とは知徳のすぐれた男子。成城の城は国を指し、国を成すの意。したがって本校の建学の精神は、知徳のすぐれた男子を育て、国家・社会に貢献する人材を輩出することである。明治18(1885)年に日高藤吉郎によって創立された本校は、令和7(2025)年1月15日に140周年を迎えた。



# 伝統を礎に、さらなる革新へ

## 牛込と成城

本校が立つ「牛込」は新宿区の地域名のひとつ。旧東京市牛込区の範囲を指します。神楽坂や早稲田も牛込に該当し、江戸時代は多くの武家屋敷が軒を連ねる山の手の住宅街でした。

1885年に中央区築地に創立された本校がこの地に移転してきたのは1891年のこと。上皇陛下の外祖父にあたる久邇宮邦彦王が本校に入学されたことをきっかけに、宮内省(現在の宮内庁)から牛込原町の地(現在の校地)を下賜されました。

牛込には台地が多く、台地の上にある本校の標高は30mあまりです。この土地は関東ローム層の強固な地盤でできており、関東大震災に見舞われた際にも、本校の建物にはほとんど影響がなかったと記録が残っています。

また、牛込は夏目漱石などの多くの文豪に愛された土地でもありました。本校の近くにある「夏目坂」は、夏目漱石の生家がこの坂の途中にあったことから名づけられました。漱石自身の随筆である「硝子戸の中」においても、この坂の名前の由来が語られる一節があります。

1913年頃～1970年にかけて、本校近くの大久保通りに都電角筈線(都電13系統)という路面電車が走っていました。最盛期には、新宿から本校・飯田橋・御茶ノ水・秋葉原・人形町を通り水天宮前までを結んでいましたので、本校の生徒もこの都電を利用し、通称「13番」と呼ばれ親しまれていました。

1891年に本校がこの地に根づいて教育に励むようになって、130年もの月日が流れています。



通学にも使われていた都電13系統

成城中学校・成城高等学校 校長

## 岩本 正

創立以来、本校は「社会に有為な人材を育成する」という建学の精神を受け継いできました。  
成城が目指す生徒像は、校章「三光星」が象徴している「知・仁・勇」を備えた男子です。

**知** 深い読みのできること **仁** 相手の立場に立って考えられること **勇** 勇気をもって決断できること

本校では、文武両道主義の下、高い人間力とやり抜く力を備えた生徒の育成を目指しています。脈々と受け継がれるその理念を基に、中高完全一貫校である利点をいかし、変化する社会や、多様な大学入試に対応したカリキュラムを構築するとともに、近年急速に発展した情報科学やグローバル教育にも対応していきます。

この変化の大きな時代に、多様な人と協働し問題を解決していくためには、自分の考えを様々な手段により表現することが求められます。六年一貫教育の中、中学生の段階から表

現力を育むカリキュラムを通じて、自分の内面に向き合い、自治自律の精神を育てていきます。そして、実際に多様な人との関わりを持つために、国外に出て現地の人々と対話することのできる「オーストラリア・グローバルリーダー研修」「台湾・グローバルリーダー研修」「ニュージーランド・ターム留学」などを展開し、生徒たちの視点を一段階引き上げることを目指しています。

文武両道の伝統ある男子校で、夢中になれることを見つけ、それを探究し続けていける男子を成城は待っています。